

報仇

全田孫神書記

六

~ 13
3324
6



門 へ13
3521
6

繪本金毘羅神靈記卷六目錄

靈神眞護嬰兒まごと靈異まじある話

円圖

宍任和尚しつにん氏台うぢのたい母子ぼしと教海きょうかいの話

坊ぼくを遊あそ戯びの圖

民たみ若わか坊ぼく去さ及およ内うち死し遇あふ

土つち及およ内うち死し坊ぼく去さ及およ内うち死し遇あふ



昭和十年八月廿九日
本大學出版部

伊加間侯演武と覽る小圖

其二

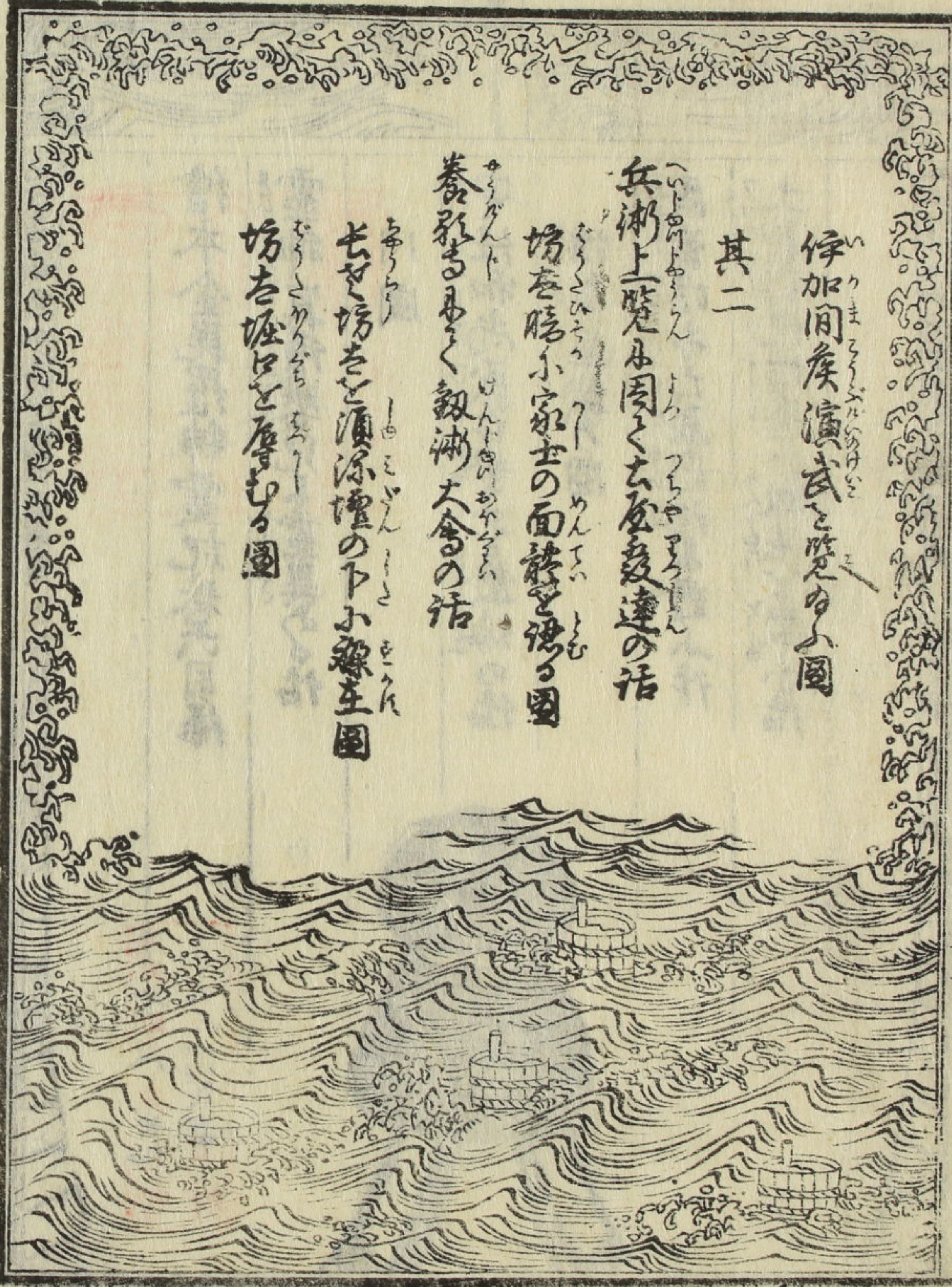
兵衛上覽小圖と去る夜達の活

坊を勝小家士の面影を傳る圖

養老寺もく教訓大舎の活

去る坊を酒添壇の下小線至圖

坊を盛とと厚むる圖



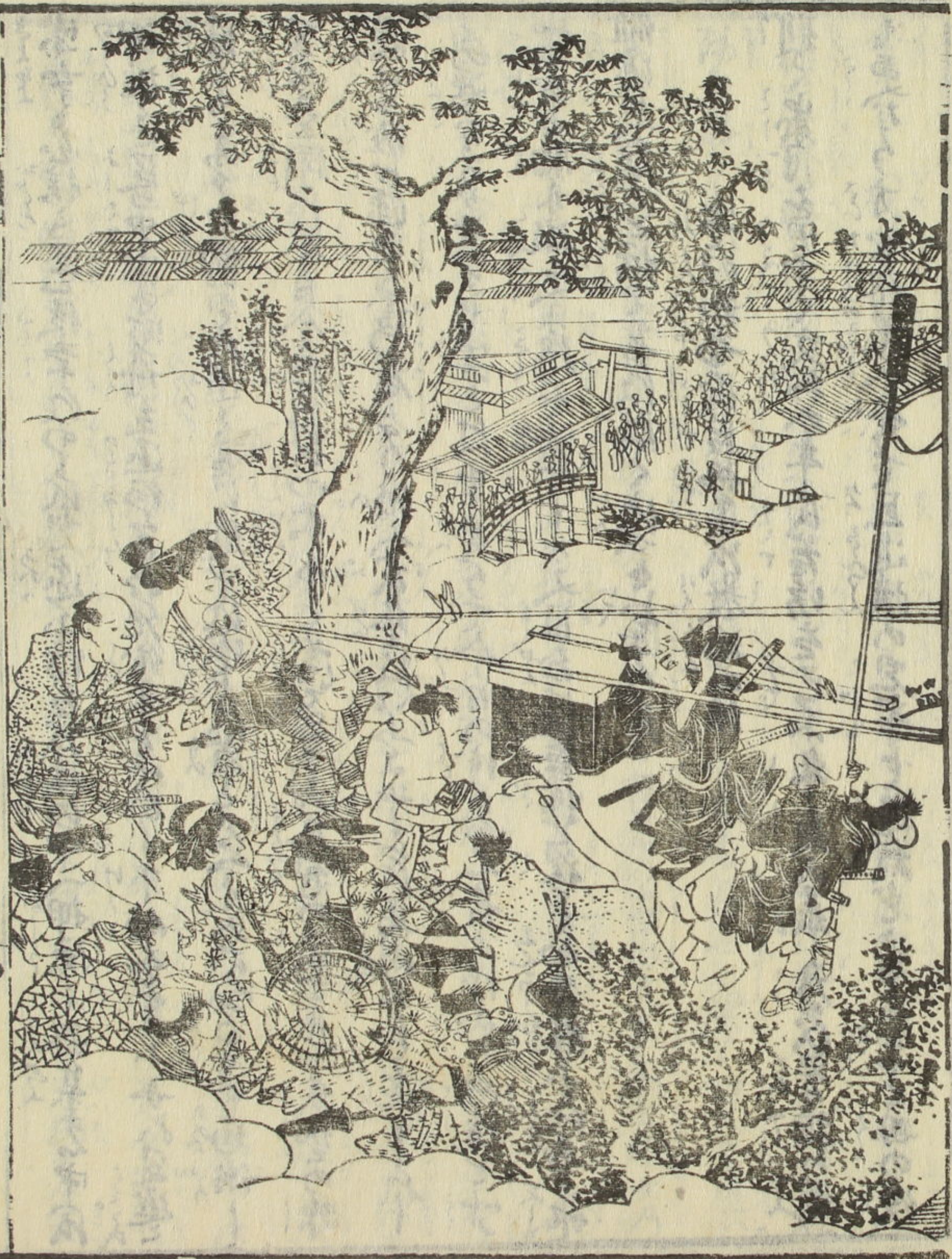
繪本金毘羅神靈記卷之六

靈神眞護嬰兒亦靈異あり詐

太任胎教と活く文王の聖人成すト孟母三遷に教を授けて養ふ此父賢を成就と人の此靈かりや胎教もよく養ふ其靈と成すわ
た太任孟母乃如と実小万世の師を謂也一室小民皆う妻女也
不圖も言ひ置れ扶助はやく快也坊を即と昔育一暮不の不思成事に
和るは孟母の言は彼也との合せは従本の初空くはやく家頭小舎を
大権現の威力と傳る人小揚焉も成す長の後離はにと成す人なれたる教
る一やかの位小帝探意同く成す人なれたる財を東東成もわぬ坊を
身入只小坊海と父氏昔深八との人なれたる口傳る人なれたる坊を
父の仇も共す天を裁けと成す坊を武士のみならず成長の後かやと

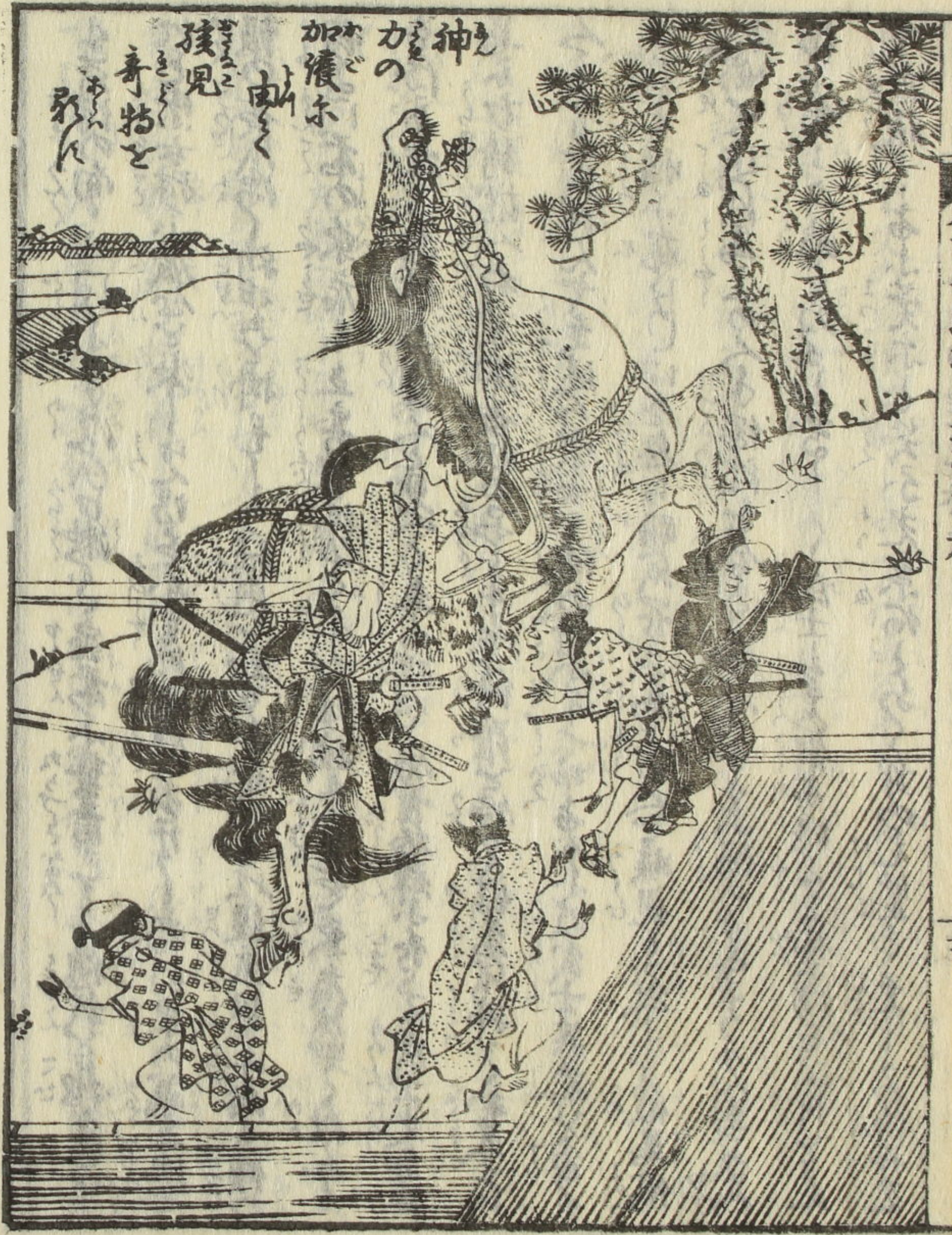
其他と報し父の膏懐と教じふるは道旅を一名と後世に揚ぐ父を名
取も形とて一せは長者の人の流るが如く云はせ月と小象頭山の遠西一歩
處も新氣を也乾らうらけ月日坐守もたり其年も言く文和二年三
月十日と云ふ源八が一周忌さまび海舟の通る成つるは只當坊さ成長
のゆえに又も二伏の反も立一系の林も唯言く早十月の十日中も第一
は進藤の者共象頭山今泉罪乃宗旅を祀せんと流しき小池小女いふ本
種あり身りもさきひの附あがりせ坊をさ懐小控控さくは小池池を
村をわく九卷の城下もかき平をさふ小池無光靈地なるに今日の日
例業乃日もまむ進玉進やまこりよ一乃尺能を遠使らるも赤兵運は人の業
費ふ万れ教を知り九卷入り彼方れ乃と此身の本儀有と云はれと接
て引も切に二里もゆる路程もたよとてさくそはる今泉の社頭出

生は等の南、二月小もはひの融と室赤小蓬青くは柄あり抱る其中
いと紫衣好小激念と懐し先考をまむは賽行をりく高沢葉の成五洲と
報の書成淨の御手も掛きり社内と物小の日れ後赤甲午射も懐
考よ門赤の葉赤小と雲野はひく率や場跡もむんせ葉赤赤くはんと
まふ小是も尚社も清の今と身へく年の頃上下皆集群小秀るも武士たるも
馬小打騎枕人君堂陰枝柄のふくもせ侍番と偏さけは赤赤挿くお赤と
今こまも瓜藤人や走迷の紫女も傍の軒小なくておあも小彼武士其赤とさる
及及く懐小痛らり坊を忍ら服成守る馬上の人と候現もさへざ彼馬儀
にぬて進尺馬上の人も懐説を今と進人さす小何さるさるらん馬も人
ひ小鳥と二跳とあると考りく武士もも創小地上下は場坊さば何と人
て雨嫁一赤小葉赤と笑ふ光赤何とわく身の毛髪とて元くは流るま



金田一右衛門正徳の御成敗

四



神の
かの
加儀
儀
由
奇
見
物
と
名
を

金田一右衛門正徳の御成敗

三

紫女も心は... 遠く... 中へ押し... 御祖... 後... 今日... 危... け... け... け...
 新く... 方も... 且... 遊... 母...

安江和為氏母女子以救海の係

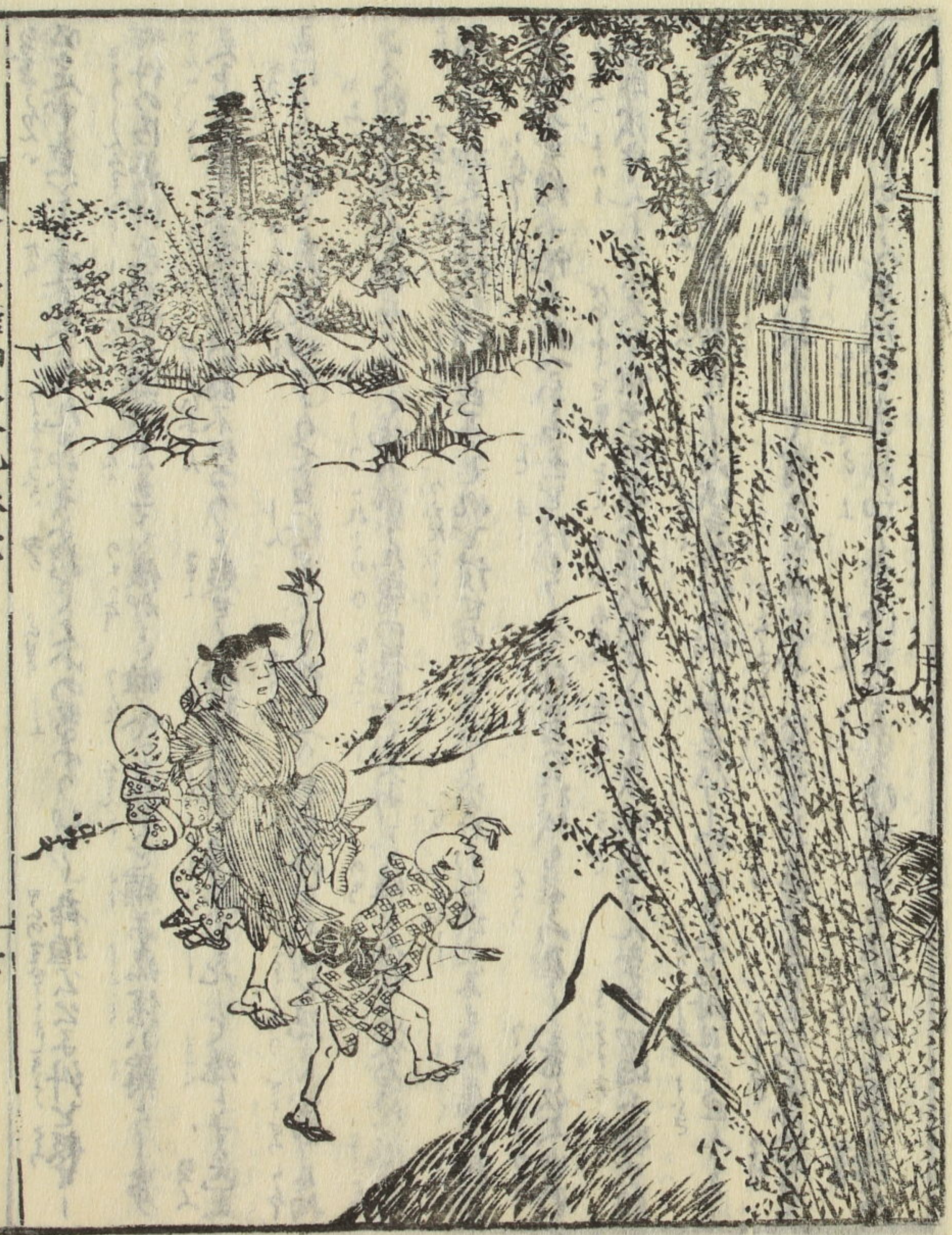
令と... 或と... 新炭... 防... 手業の... 成長... ありて... かく... 執... 寺中... 五...

金毘羅神靈記卷六

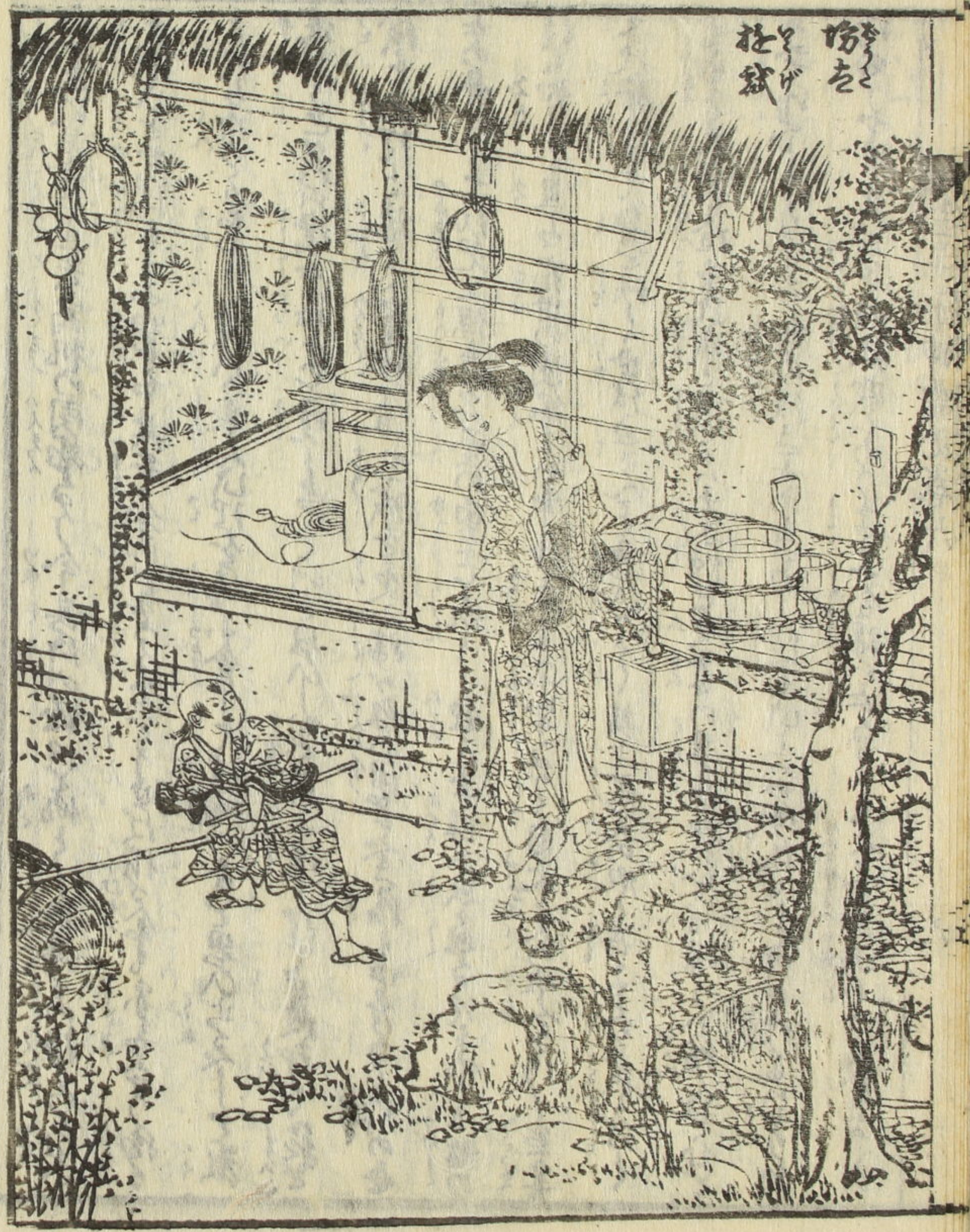
終凡も能く不自在を得たりゆは或る事は随くき業自然に成るる切なき
事分相親のゆゑに或る事分相親のゆゑに或る事分相親のゆゑに或る事分相親のゆゑに
父の仇と報むる人の事乃と云ふは或る事分相親のゆゑに或る事分相親のゆゑに
や人の志を健氣のつくりたるを能く其能く事奉ふと云ふは或る事分相親のゆゑに
凡の事一息と云ふは或る事分相親のゆゑに或る事分相親のゆゑに或る事分相親のゆゑに
の持てる處なりと云ふは或る事分相親のゆゑに或る事分相親のゆゑに或る事分相親のゆゑに
故せん後と云ふは或る事分相親のゆゑに或る事分相親のゆゑに或る事分相親のゆゑに
掃りたるは其村を能く其能く事奉ふと云ふは或る事分相親のゆゑに
幸に於ては且人の世は或る事分相親のゆゑに或る事分相親のゆゑに或る事分相親のゆゑに
其能く事奉ふと云ふは或る事分相親のゆゑに或る事分相親のゆゑに或る事分相親のゆゑに
一念の事分相親のゆゑに或る事分相親のゆゑに或る事分相親のゆゑに

免るは是等過去宿世の因縁なり今其身の成るは或る事分相親のゆゑに
交際を能く其能く事奉ふと云ふは或る事分相親のゆゑに或る事分相親のゆゑに
と云ふは或る事分相親のゆゑに或る事分相親のゆゑに或る事分相親のゆゑに
徳を能く其能く事奉ふと云ふは或る事分相親のゆゑに或る事分相親のゆゑに
其能く事奉ふと云ふは或る事分相親のゆゑに或る事分相親のゆゑに或る事分相親のゆゑに
其能く事奉ふと云ふは或る事分相親のゆゑに或る事分相親のゆゑに或る事分相親のゆゑに
其能く事奉ふと云ふは或る事分相親のゆゑに或る事分相親のゆゑに或る事分相親のゆゑに
其能く事奉ふと云ふは或る事分相親のゆゑに或る事分相親のゆゑに或る事分相親のゆゑに
其能く事奉ふと云ふは或る事分相親のゆゑに或る事分相親のゆゑに或る事分相親のゆゑに
其能く事奉ふと云ふは或る事分相親のゆゑに或る事分相親のゆゑに或る事分相親のゆゑに

小石川



坊主
狂言



必定か意とも違ふことか九節未だ終つて木の葉ありけり一掃桓公公子糾を殺す
附料の臣管仲死す從は身と先き後却て備へる桓公と輔成侯侯小覇と事
又上と匡と人後仲が死す不にやうと敗せし孔子對て陳漢死して降すす匡
且曰ドつべとさひ其功小なりとにやうとも許さず是後仲が大切と思へし前
ざる所汲より今坊を身も後り樂九節の後思と美あり後大健と成る凡風骨
備えり加之持現の神龜馬を仇と殺せぬんとさうばある武士も附屬し終
登兒不甲傷小死し終へぬとと候とて神龜の神威もさうなり一書収人其の
小節成守人より大智世々の教も從ひて守り成る海海が可ん事其切迫も勝りぬ
是れ一巻初七七番よ一ふび方訂兵一や多ひかどもたれた附日と過人
今一も南も小なるじしや有るを海女わし一業もあたるも元た衣は却て
後の坊とありん事成思きさう切りも清惠とある清き事も世にありぬも作不

酒の作一して坊を二回不括と泰も母も海初序も作も父の仇と殺す
志をさすも守りぬと父の子りり母も圓り其をが自八九番もとさす成
と教傳せし事成計人と思ふと和志の作止却く今日も海とあるも
とあるり今か一成長は思ふ思ふ思ふ思ふと和志の長体と成志の探
成も物よりなる其初までもあつて和志も從ひ守り終く作を守り切
且事成勅免復仇の志ある事へ勢も色もあつていんせ徳く云實せば坊
とさす守事の若るうね母が輝と並一も定決勝色とす事不るさす
若りふれく斯と和志も若るうね和志斜るうね其ひひもいんせ徳とさす
及先日産よ意を肩ゆりくその學女々其後書成るれ扶助と特近し傍後教
徳の業をぬくとしす小以成教するの資とさす一幸若の月日とさす坊を成長の
形と候兵くさ公喪健守もあつと哀なりありや也

氏官場を去る内記小遇法

却就氏官場を去る慈母の持不徒ハ即時小養教を小留り事任最老の慈老法
 く平常惻小留を嘗長老親口神兜漢経を授りも小聲小息下々彌送
 一衣を以て之を幸あしく殘彌の声以風流此其徳をうみく其く朝くして
 老成の儒流も嘗しく凡人欲する幸あまふ未だ慈母の慈母も其徳を
 尋る事幸中と徳をうみく如く廣恩の行跡も其幸教する事幸徳相考も
 響も懐ありて嚮小老徳を幸うし用遠げは思果して丸製する以定是及生思
 較の諸徳及び況生志のふ子持老かふくこそく存厚く徳育をせせし
 たる上ぬと海あまふトと徳より甚くその有と熱く幸と作し小謂あけけ
 しばぬれ兼びつる小坊をがの状幸小徳人ふ其るる小寺中の傍門客小正巨
 非謂となく弘法大師の再来する人と謂あまふ後其其名と徳をうみく

是大師の御房を私孫り多徳時不を内記一日春春の次方丈小令々安任和
 尚小對面ありて雜話の序次をい尚寺小大師の再来とて奇才の離徳あり
 せり河方より来りけや徒後次より其離徳も相感小お成をいせ之凡
 和者不文候と深し染が出處俗人へと深く包幸も其徳をい深れ圓縁あり
 包ら乃ど染と先年扇ト加らまう氏官場を去る慈母の慈母も其徳を
 付と胎孕七月より其後法を授けし出せし今幸已小の素行をも物徳法を
 其序より紹介され内記慈母をが面親とて小深小傍佛其徳懐せん徳を
 助一真成源ハが授死の次者存物も母余の幸あり原吾師の諸徳ともい
 助之立也勇義の士たりまわるといく徳徳一或士不を抜撰せ思ひます
 も空く今小推く遠懐止新く渠が遠腹ありせとて内記扶助を加え我
 向るん心とて在ん徳を新くも知るるい尚以遠懐をせや法を善と徳

全明齋集卷之三

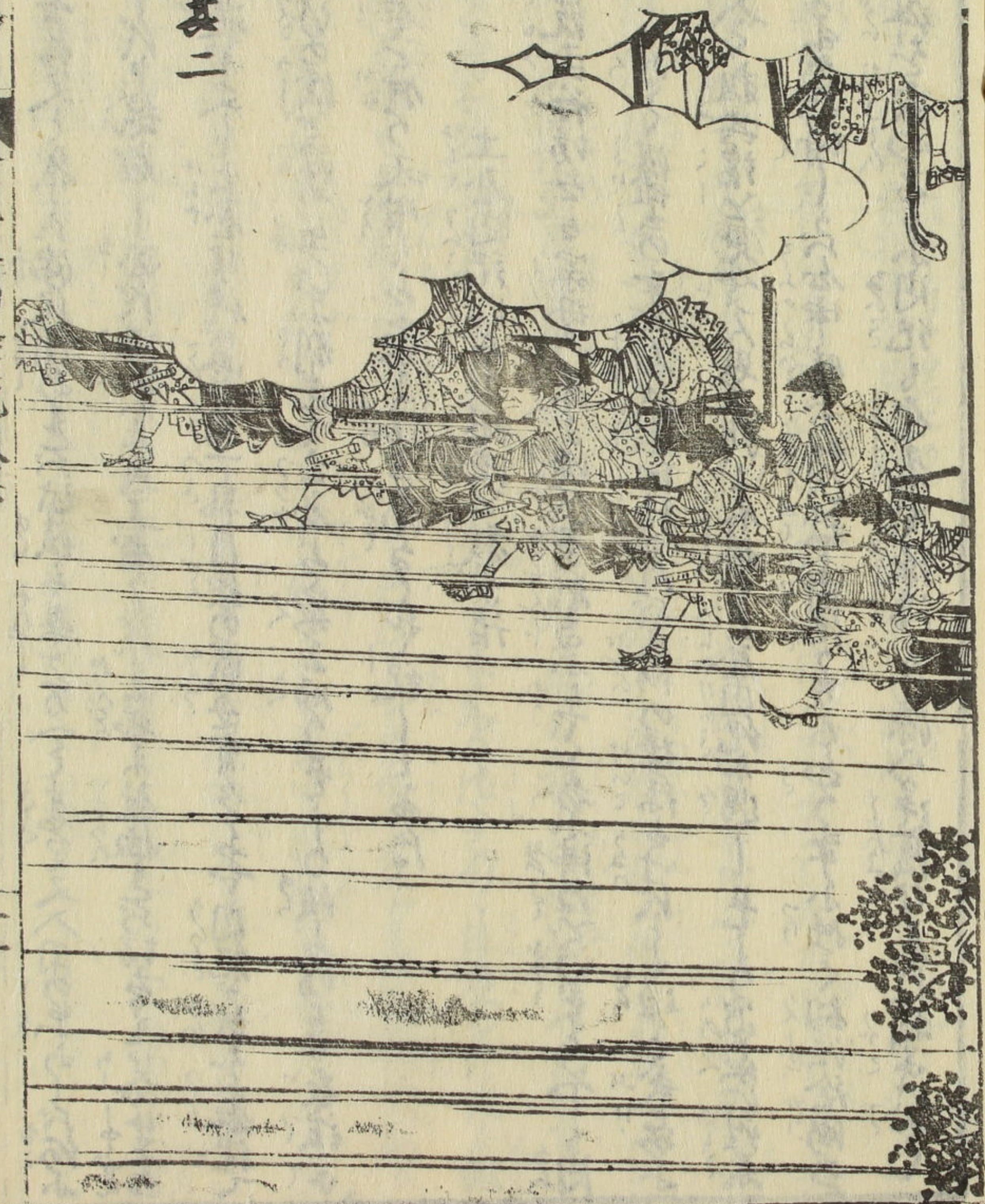


いりま
作加同族
濱武と
梵人

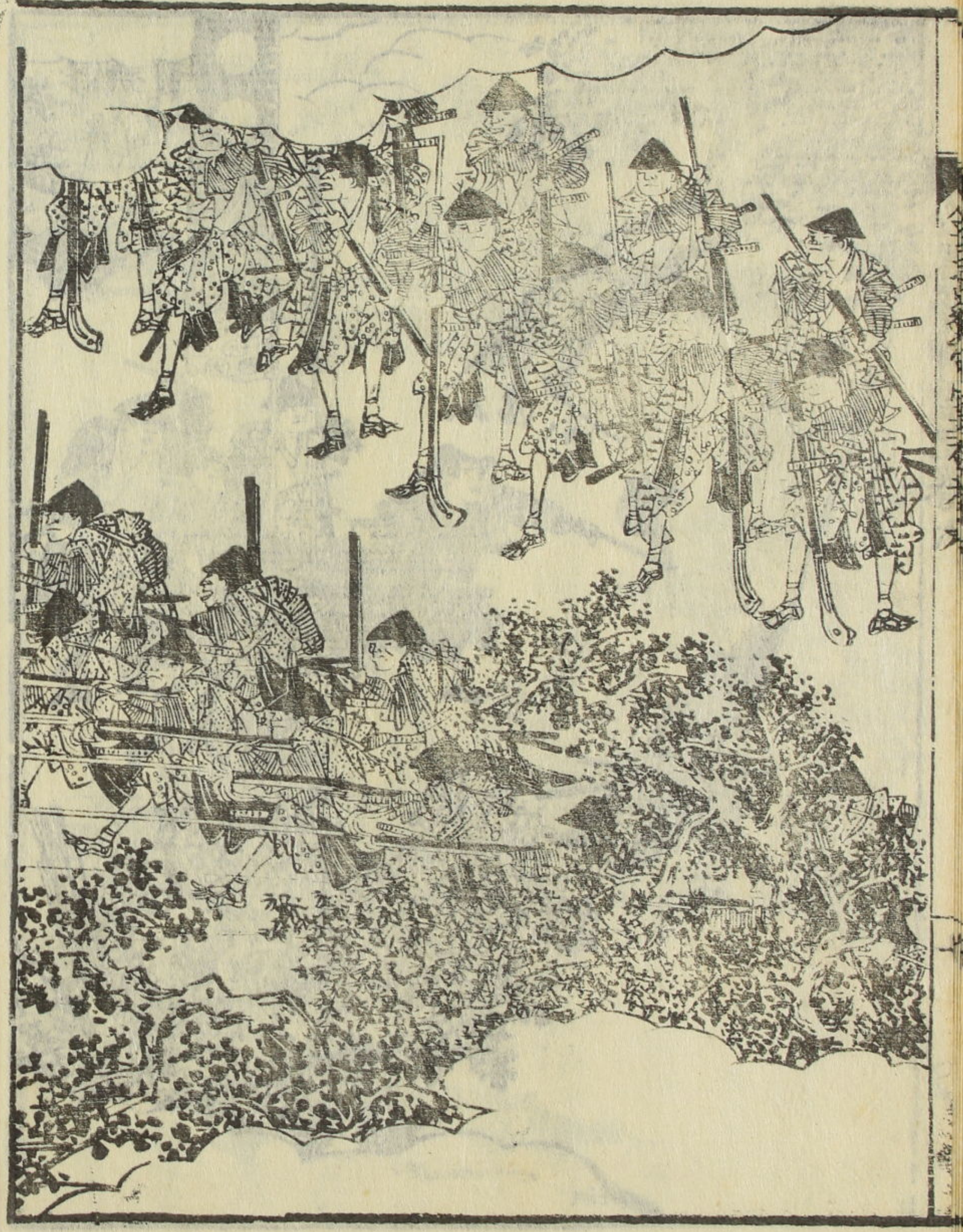


金瓶梅詞話卷之六

其二



十一



其方の父は我の海内同の事は後と某の方へもまた又入用の方へは亦
ふくむ紙登り必だるな思ふ程くはなむ本盤血とて揚をもちかき
恩遇を又いよをり後骨内一軌自然の感育多す本内記が教と親徳を
教ひの候と海内互ひ別して去座と家上りゆり是より後と揚をが夜直
道程と候り又燐くと家上り候と揚をが親いと事
土屋内記坊と本海法と教子活

再版武治坊と家母乃流は流ひ書れる小年と京津乃流もくも内
知ふるべく優盛の事と忘へ未切弱なれ武洲の権保と寸尺も迫り武治
まへと粗共場と見守る人思ふ所は不料も去座内記か遇は是より波家には不
なる事候得へ公中時不れむ内記が方もか幸小柱く知法論法
事件を束回ちり内記も幸本同様流り源へ運後が是は我子候く

死也一且其骨相減る成人の後と又源八とと燐をく思ひへ公出来なり
朽果さんと申えりな事小思ひ事と和あふ候てに公方引取武洲流せり
夫時れ武士も成候へせ思ふがけは坊と武洲の事候ふ内記を親と流
石父源八が種をせ一日武洲知法一と後一其統自然小備く規矩と遠一
ざりへ内記更不種秋一尔後坊とある毎小容に好保物一り是れ是不
ねと坊と其末志を遠しや親と去座方小年ゆりゆり保摩を行はれ候
内記と保と書けるの詞と候ゆり色むがは家ととてむい初移候つ
とれ守りた于時父和六年の夏書けるもと夏中勤りの事候く一
暫付内記方へ申はり候はる一夏畢も初書候も書候りも書候り候はる
一日和尙小殿と保入脯時とと去座方へ申り候はる小教書の事候り候
申熱間侍守は元之ととて春しととて夏は平く還るんて候はる

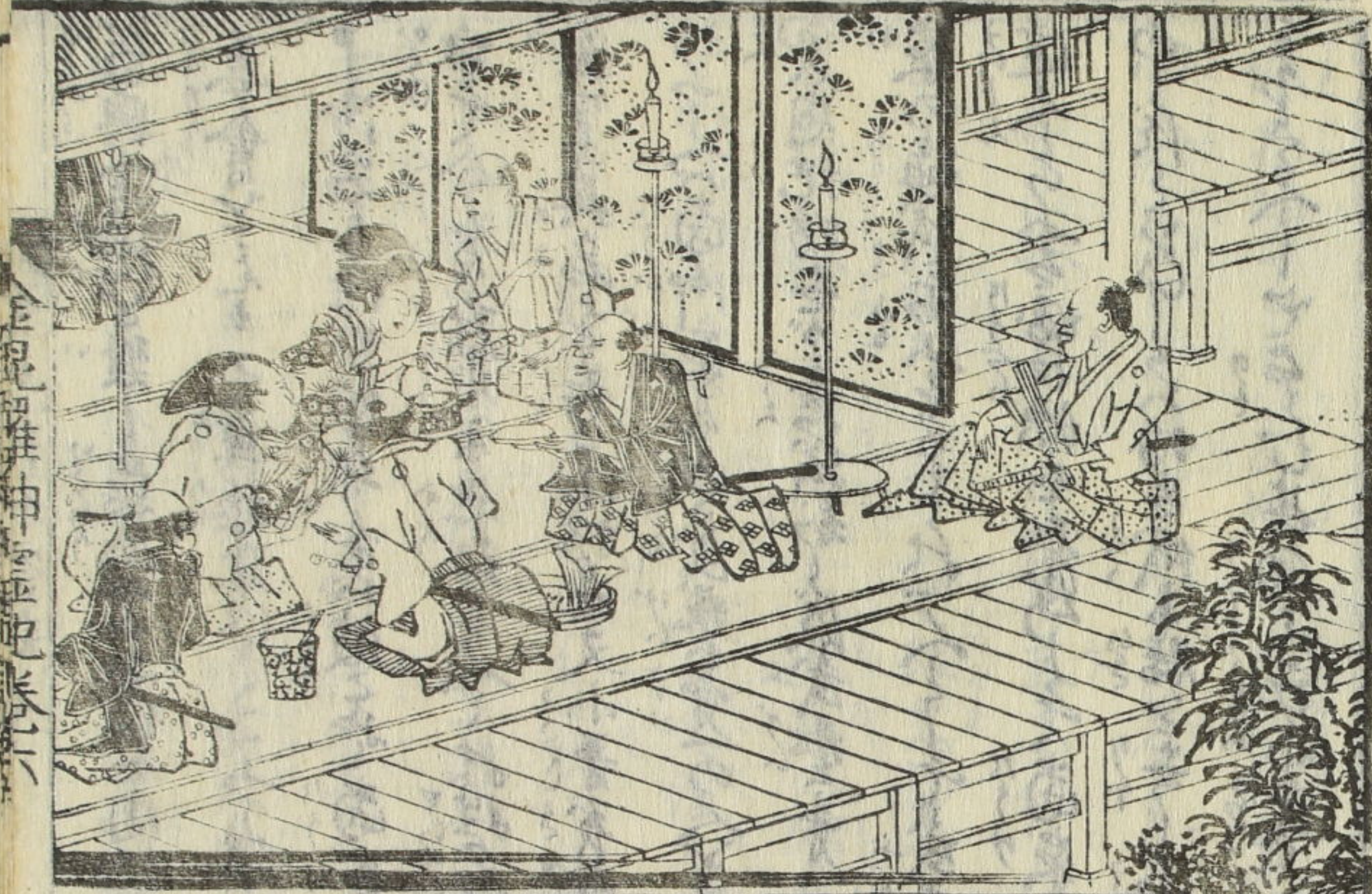
新編武洲中流記卷三

因小入とて小頭目如婢小身をて面く小用込勤く他を頼の暇に坊を
の来も又成かるとはもつた光景さまで使ふ便あつた坊を来つてせんで
肉紀史婦と熱雨折る行はせど之とて言はるるに坊を来つて小用を
何とせしめ奉らば今日と道途小奉らば後と法作とて思へて我
もとを成ひあつて情なれんと教多招れんとせと熱雨折る要時せし
暇もあつた又如婢も厨下小奉幹多き行はぬの友とて思へるも
る今日とて寺人還りの自事ひ暇と行なはせとて言はるる奉
しどをの親客小思ひとて我伯父伯母の原情を言小原南次とて縁
武藝の人意成も國是二女仇敵はか面作とも見想ざらぬ時とて思
こむせ思ふ成あり武藝の事伯父の教もいひて其法をたつとて得
これども坊はか面作と何いとも事い今小奉らば其間法を今日の書

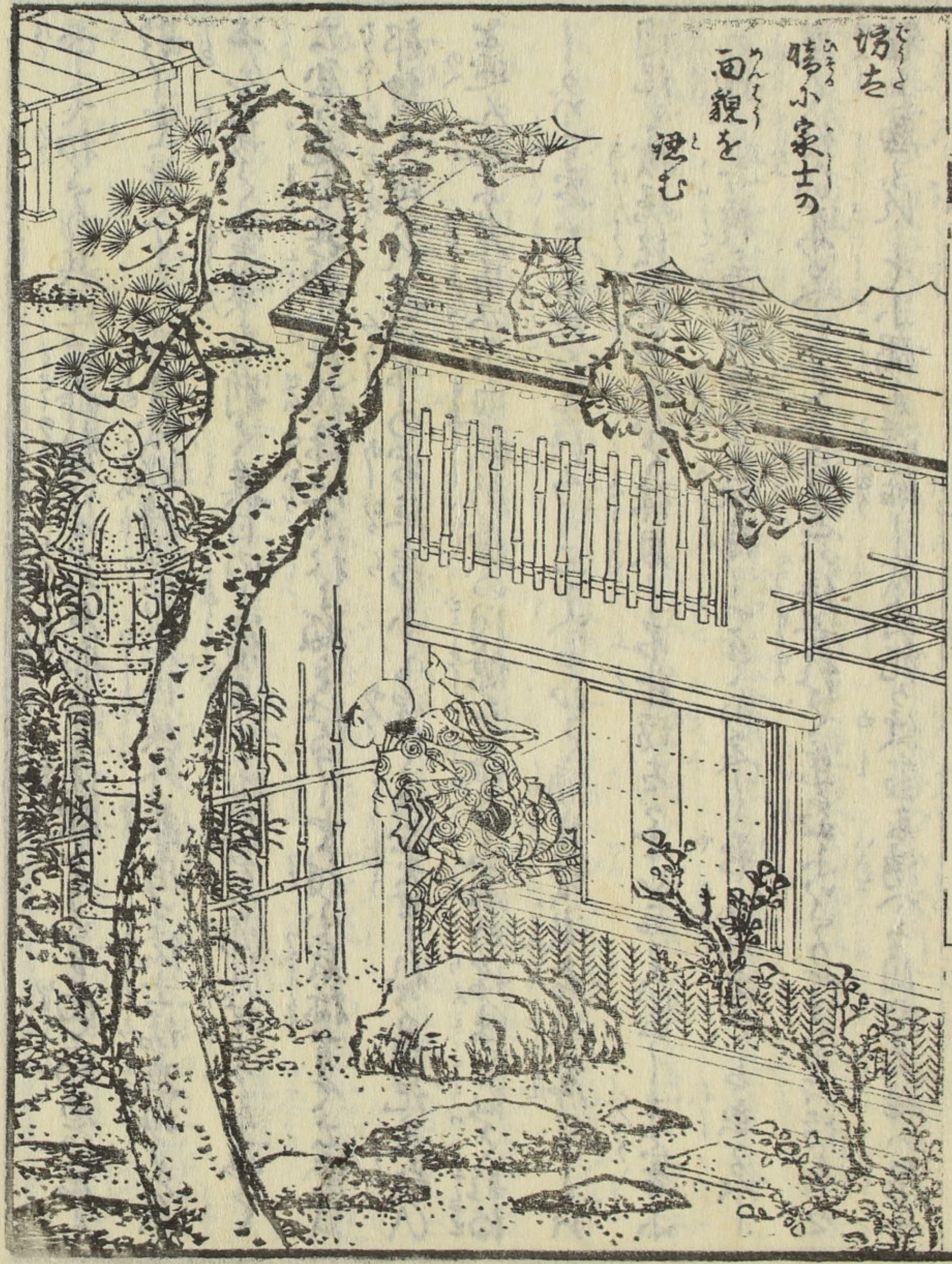
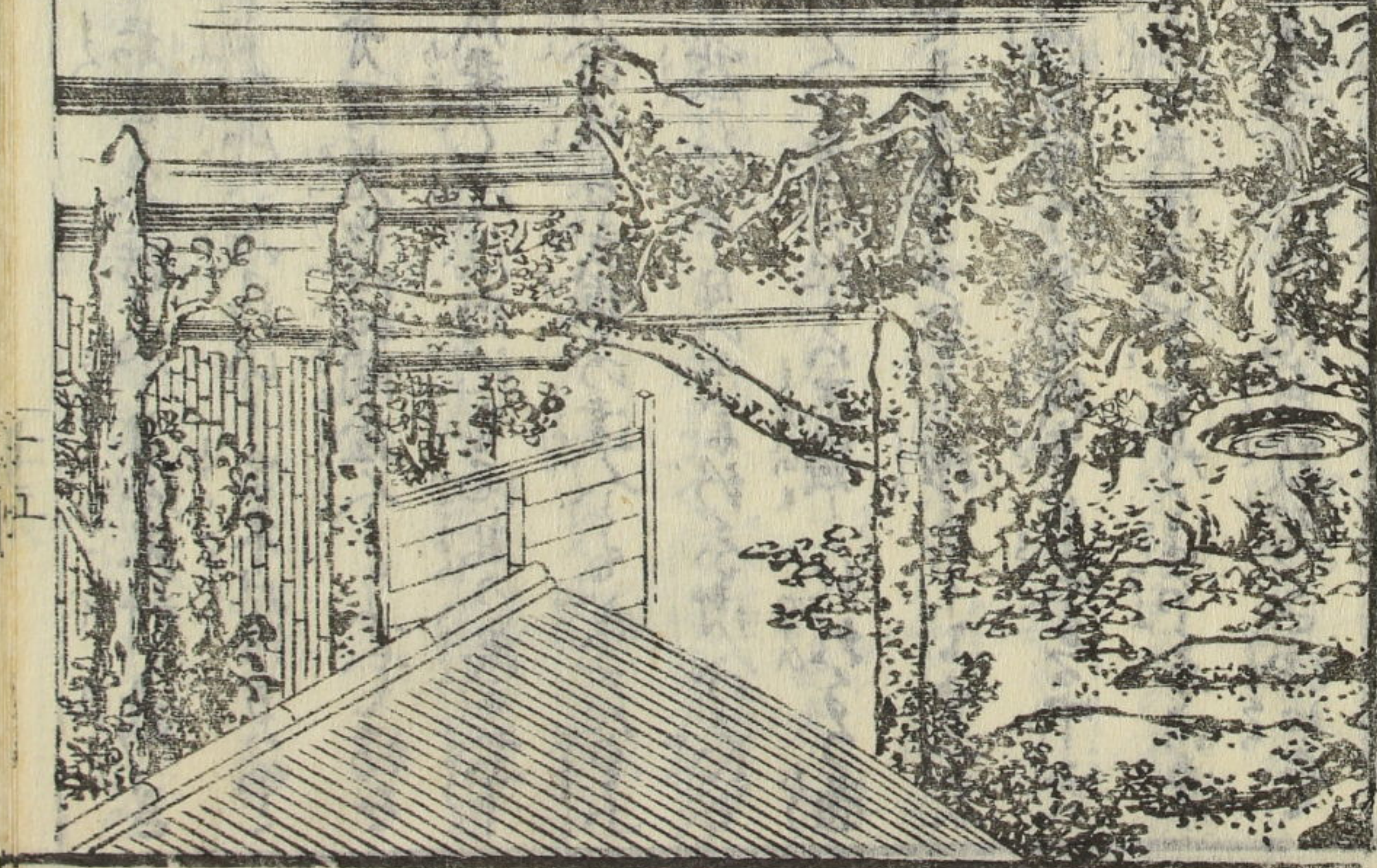
家中の人中あはば月紀法に其中小交番人必計難く事小親ひんむと再
肉紀史婦小子奉寺小れとて武士の妻りも好くなむを厚儀を
熱雨の散を中守つてい守房をい小奉奉りて其法をたつとて思
肉紀史婦其方が厭倦する人奉と奉りて還るべしとて思へるも
もとも不防信置はす何方よりたつた何いとも思へるも坊を来つ
御食の側なる家小思ひ合席信士の面作と何い思へるも記はるも答
夜の光景成何い思へるも返聖の坊とて思へるも
兵部上登見同く土屋敷遠の話
再説土屋敷内記今日不晴も信士と招信する原縁と奉らば信加同家の例
とて再奉再中記那の將士奉奉りて其法をたつとて思へるも坊を来つ
取一秋の坊小思へるも守自其法那の巧拙と上院あつて意勝とて思へる

其勢遠と重賞せしむる所は、故小田原の武備特許、小田原の今杖も、漸のてく
會日瓜定め早展よと其場所、小田原ありて見ゆ、八幡督於統の面く、吾如く
と述べ、一畑一隊進出、其後、種を置、然中、去、屋内、記を、軍陣の法、小長下、年々
精練と、極、流、生、の、下、小、殿、幸、さ、一、面、杖、も、悉、る、属、下、に、進、退、の、法、を、傳、く、操、練
な、つ、つ、其、日、小、田、原、に、屬、下、に、歩、率、六、拾、人、を、三、隊、小、田、原、に、二、隊、小、田、原、に、多、洗、と、名、を、
一、隊、小、田、原、と、名、を、目、く、真、定、小、田、原、と、名、を、會、場、小、田、原、と、名、を、把、く、指、麾、と、名、を、
二、隊、の、兵、率、多、小、田、原、を、一、と、名、を、流、源、と、名、を、進、人、と、名、を、二、隊、小、田、原、と、名、を、
隊、の、其、後、小、田、原、と、名、を、去、屋、内、と、名、を、去、屋、内、と、名、を、去、屋、内、と、名、を、
敵、小、田、原、と、名、を、引、下、小、田、原、と、名、を、引、下、小、田、原、と、名、を、引、下、小、田、原、と、名、を、
去、屋、内、と、名、を、射、手、の、二、十、人、進、出、と、名、を、切、て、敵、の、法、同、小、田、原、と、名、を、
管、と、名、を、操、練、め、切、二、隊、り、て、去、屋、内、と、名、を、去、屋、内、と、名、を、去、屋、内、と、名、を、

心して抑へ、其、速、存、整、つ、る、光、景、那、る、法、部、と、名、を、向、屋、内、と、名、を、
形、と、見、く、一、く、去、屋、内、と、名、を、守、法、部、と、名、を、守、法、部、と、名、を、
声、を、揚、ぐ、賞、賞、と、名、を、斯、く、其、日、の、上、夜、早、に、夜、賞、を、沙、汰、せ、る、事、な、り、
去、屋、内、と、名、を、其、後、下、に、持、練、地、小、田、原、と、名、を、持、練、地、小、田、原、と、名、を、
都、督、小、田、原、と、名、を、其、後、下、の、歩、率、多、小、田、原、と、名、を、歩、率、多、小、田、原、と、名、を、
と、述、人、物、小、田、原、と、名、を、以下、回、顧、新、獄、の、月、像、を、振、と、山海、乃、孫、孫、と、名、を、
一、く、去、屋、内、と、名、を、小、田、原、と、名、を、流、く、一、二、三、と、名、を、酒、真、誠、誠、者、進、席、せ、る、事、
内、記、も、操、練、法、部、小、田、原、と、名、を、休、息、一、不、斗、坊、と、名、を、事、と、名、を、事、と、名、を、
五、拾、と、名、を、打、控、せ、る、事、と、名、を、定、く、復、集、て、事、と、名、を、一、と、名、を、
速、く、休、み、と、名、を、一、と、名、を、分、付、と、名、を、侍、女、と、名、を、事、と、名、を、
種、と、名、を、一、と、名、を、小、田、原、と、名、を、一、と、名、を、因、記、と、名、を、因、記、と、名、を、
因、記、と、名、を、因、記、と、名、を、因、記、と、名、を、因、記、と、名、を、



九段尾町新田町

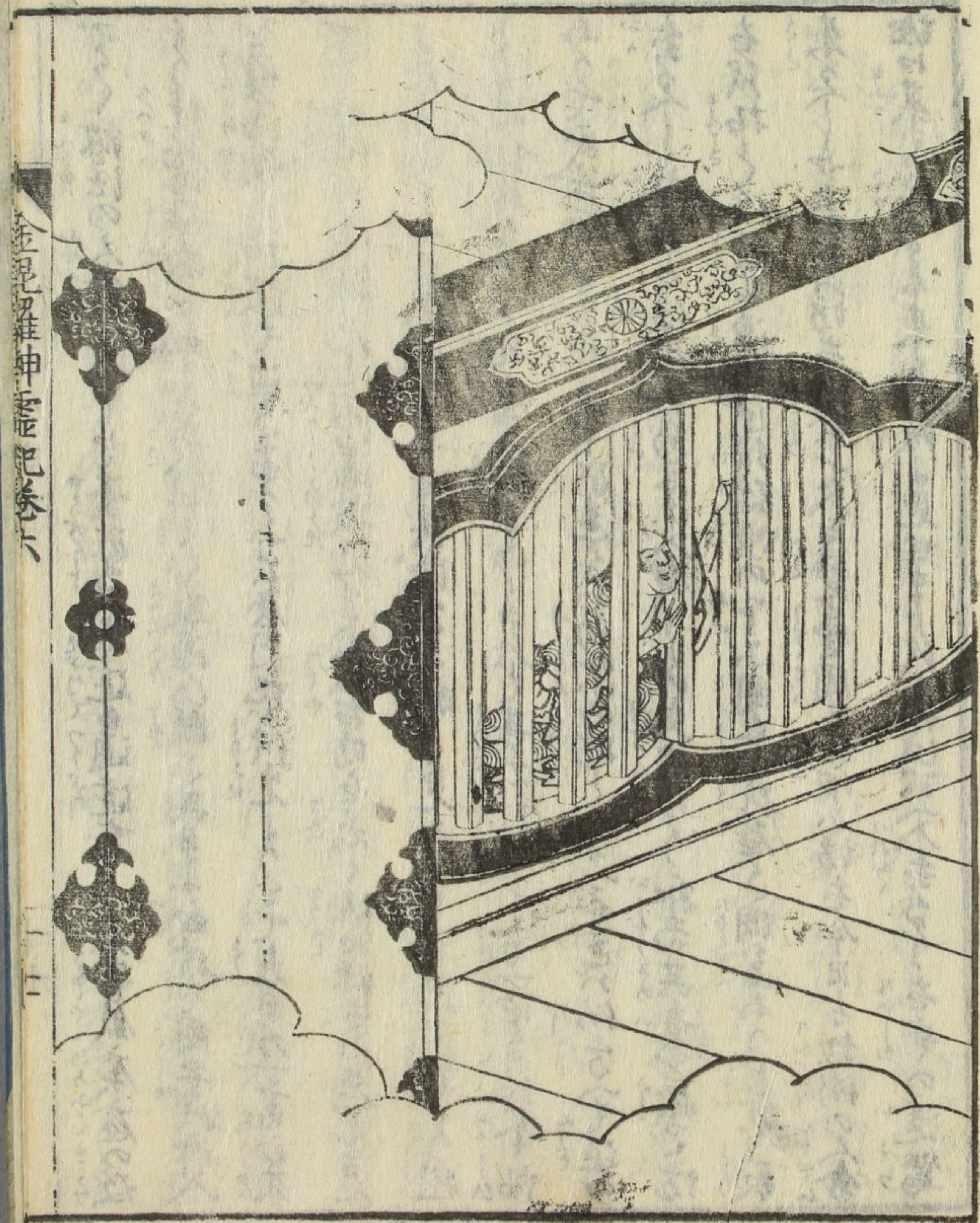


坊を
晴小象士の
面親を
徳心

金毘羅新田町新六

高與(高與)と數一(數一)慈恤(慈恤)る小坊(小坊)を内紀(内紀)が前(前)より(より)とほ(とほ)く今日(今日)を(を)不計(不計)も(も)所(所)に
 喜會(喜會)と(と)も(も)て(て)無(無)越(越)來(來)は(は)く(く)さ(さ)り(り)上(上)席(席)小(小)居(居)好(好)ひ(ひ)言(言)奉(奉)此(此)所(所)方(方)の(の)と
 中(中)流(流)方(方)小(小)他(他)也(也)や(や)身(身)を(を)波(波)に(に)波(波)を(を)南(南)家(家)才(才)の(の)老(老)后(后)加(加)回(回)養(養)人(人)と(と)令(令)坊(坊)を
 重(重)て(て)今(今)宵(宵)在(在)申(申)身(身)を(を)終(終)へ(へ)て(て)姓(姓)名(名)を(を)書(書)く(く)回(回)は(は)内(内)紀(紀)も(も)酒(酒)氣(氣)の(の)真(真)も(も)業(業)下
 重(重)二(二)身(身)其(其)名(名)を(を)告(告)る(る)小(小)坊(坊)を(を)又(又)小(小)弟(弟)美(美)成(成)人(人)の(の)後(後)を(を)武(武)藝(藝)の(の)達(達)人(人)も(も)感(感)た(た)る(る)ふ
 少(少)く(く)南(南)洲(洲)家(家)も(も)武(武)藝(藝)才(才)の(の)人(人)と(と)見(見)た(た)る(る)今日(今日)の内(内)紀(紀)も(も)所(所)方(方)の(の)と(と)
 内(内)紀(紀)坊(坊)を(を)意(意)成(成)か(か)ら(ら)武(武)藝(藝)才(才)の(の)人(人)と(と)見(見)た(た)る(る)未(未)獲(獲)は(は)れ(れ)ら(ら)る(る)南
 家(家)の(の)福(福)成(成)亦(亦)小(小)を(を)と(と)れ(れ)一(一)人(人)と(と)て(て)武(武)藝(藝)身(身)達(達)せ(せ)る(る)さ(さ)り(り)物(物)さ(さ)る(る)才(才)一(一)人
 達(達)人(人)と(と)さ(さ)る(る)所(所)は(は)源(源)を(を)な(な)る(る)と(と)南(南)家(家)の(の)所(所)能(能)たり(たり)今日(今日)我(我)等(等)か(か)ら(ら)ま(ま)る(る)中(中)に(に)
 あ(あ)ら(ら)ん(ん)と(と)し(し)て(て)小(小)坊(坊)を(を)賊(賊)小(小)勝(勝)と(と)ま(ま)り(り)小(小)弟(弟)を(を)其(其)所(所)方(方)と(と)見(見)中(中)た(た)ら(ら)ん(ん)と(と)見(見)出(出)見
 たり(たり)と(と)せ(せ)り(り)其(其)面(面)を(を)初(初)小(小)愛(愛)く(く)見(見)下(下)る(る)内(内)紀(紀)志(志)成(成)か(か)つ(つ)る(る)所(所)は(は)是(是)

彼(彼)物(物)向(向)り(り)と(と)父(父)の(の)仇(仇)を(を)彼(彼)切(切)推(推)して(して)武(武)藝(藝)と(と)執(執)心(心)し(し)今(今)又(又)所(所)は(は)る(る)所(所)は(は)さ(さ)く
 面(面)を(を)愛(愛)せ(せ)り(り)と(と)見(見)る(る)見(見)ま(ま)る(る)と(と)父(父)の(の)仇(仇)を(を)幸(幸)と(と)知(知)く(く)恨(恨)と(と)報(報)さ(さ)る(る)の(の)氣(氣)分
 あ(あ)る(る)か(か)ら(ら)若(若)此(此)の(の)所(所)は(は)耳(耳)小(小)入(入)り(り)は(は)梁(梁)が(が)身(身)安(安)穩(穩)さ(さ)る(る)ゆ(ゆ)に(に)南(南)與(與)も(も)亦(亦)く
 よ(よ)し(し)る(る)物(物)が(が)り(り)せ(せ)り(り)せ(せ)ぬ(ぬ)え(え)は(は)あ(あ)ら(ら)の(の)作(作)は(は)所(所)見(見)く(く)る(る)所(所)は(は)南(南)與(與)を(を)
 見(見)ま(ま)り(り)然(然)れ(れ)ど(ど)も(も)彼(彼)所(所)は(は)寡(寡)君(君)の(の)所(所)能(能)たり(たり)る(る)事(事)も(も)亦(亦)見(見)る(る)事(事)也(也)毎(毎)年(年)八(八)月
 十(十)日(日)國(國)府(府)八(八)幡(幡)の(の)神(神)事(事)終(終)り(り)て(て)後(後)太(太)皇(皇)孫(孫)等(等)亦(亦)清(清)成(成)り(り)て(て)祓(祓)禊(禊)の(の)大(大)會(會)を(を)
 坂(坂)口(口)を(を)所(所)能(能)たり(たり)る(る)身(身)も(も)亦(亦)清(清)成(成)り(り)小(小)大(大)事(事)なり(なり)其(其)所(所)能(能)たり(たり)て(て)見(見)る(る)事(事)も(も)亦(亦)さ(さ)る(る)は(は)
 此(此)事(事)以(以)他(他)小(小)治(治)る(る)る(る)に(に)り(り)て(て)小(小)坊(坊)を(を)大(大)小(小)悦(悦)び(び)其(其)教(教)を(を)去(去)る(る)方(方)小(小)坊(坊)一(一)日(日)
 寺(寺)小(小)降(降)り(り)て(て)國(國)府(府)八(八)幡(幡)の(の)神(神)事(事)を(を)指(指)を(を)ま(ま)る(る)と(と)ぬ(ぬ)り(り)たり(たり)る(る)
 養(養)老(老)の(の)も(も)亦(亦)清(清)成(成)大(大)會(會)の(の)活(活)
 附(附)る(る)文(文)和(和)六(六)年(年)八(八)月(月)十(十)八(八)日(日)撰(撰)列(列)九(九)志(志)の(の)城(城)外(外)國(國)府(府)八(八)幡(幡)宮(宮)系(系)續(續)の(の)後(後)恒(恒)例(例)の

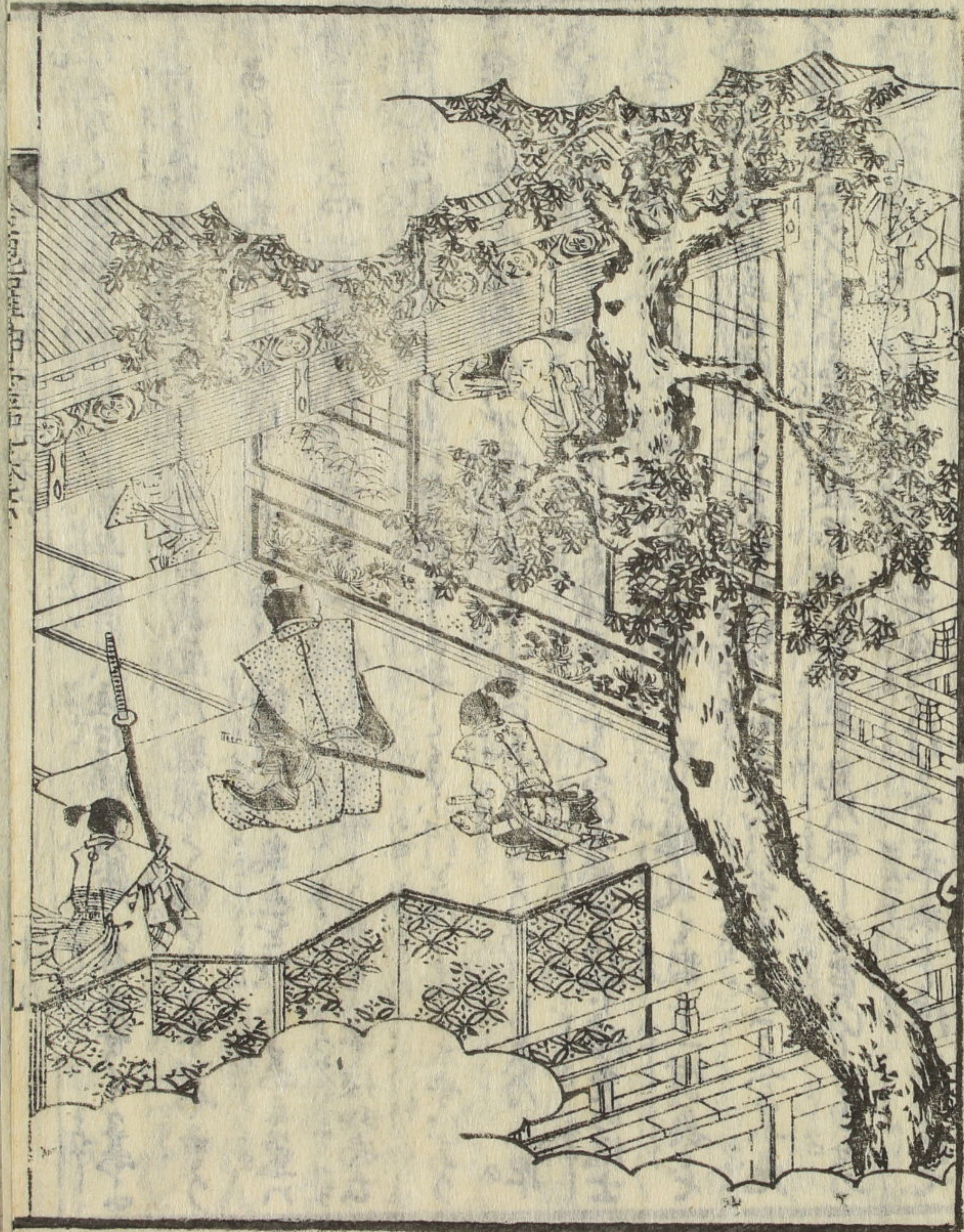


長老
坊主
須弥壇
在此

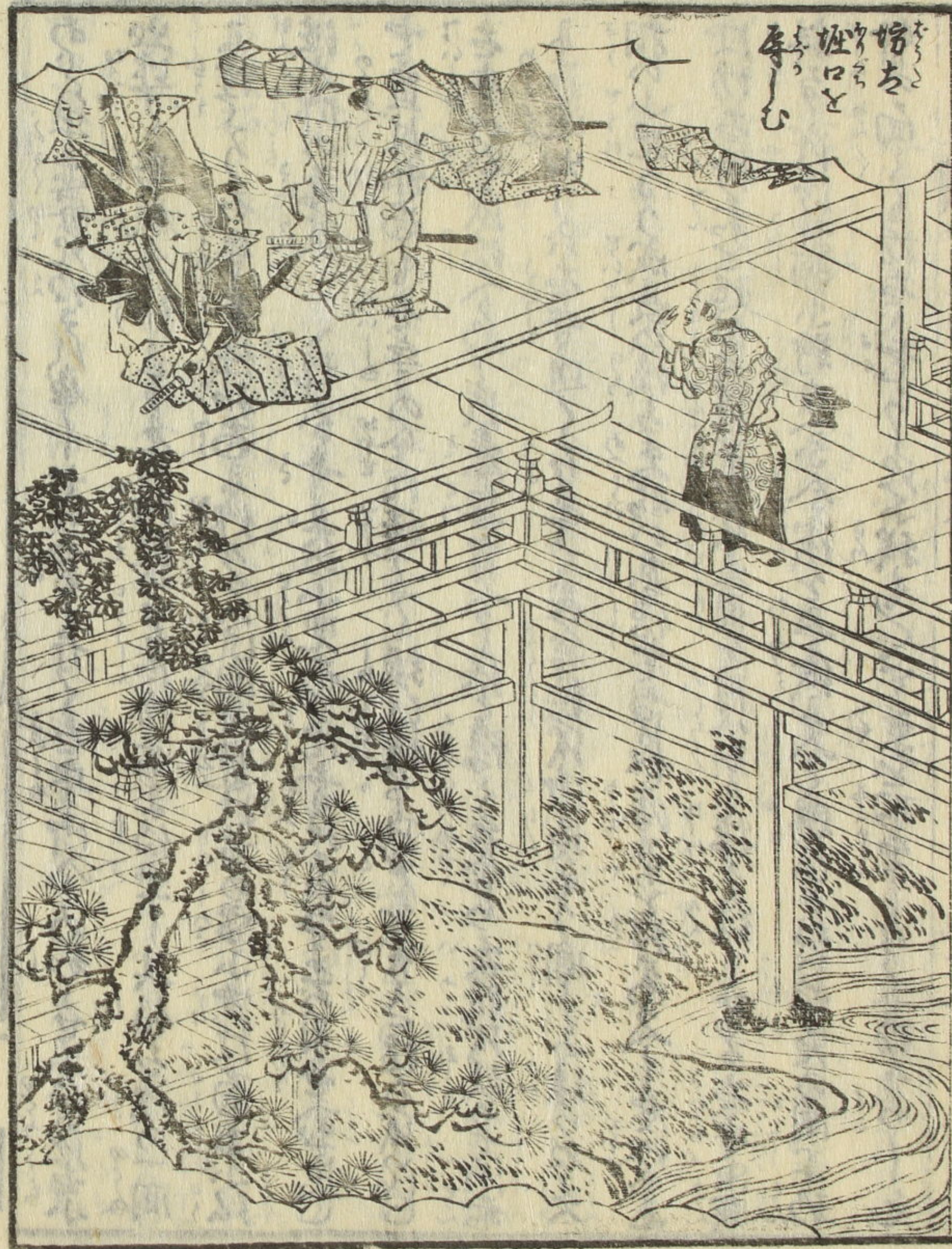
金瓶梅詞話卷六

かく叙法の大會有りしや美也きハ先達も通達有るは客殿度庭の及
 うり境地の掃除も整ふて感のてく取浴の既小其日ハ御徳を國守に許入
 且清湯頓々刻限も近こあふ小去庭内記が信先よりそそ志鬼の二書は未
 せり和志何事をもとと不義被せんと小民皆坊を悪く垢口涙を名あつとん
 たりや中やせり國々今日其流もよ流と見まへしを始りしり
 とも被切弱るぐ九庸の者もあふれ其志計難く一方由り北奉勅
 ありて民皆涙かふたり事難きを以り末の坊ともさ事まはれ何方へも違ひ
 交ふし妻曲と後神お湯中へ入ぐとの文様行り相志其意と信り坊
 を成振と佛及小連は須弥壇の下の小園守に坊をう烟盛あり志で取
 本志へとあまは坊を今令て入る跡を壁固くわ何小坊を今日と叙法の大書
 垢に集る我も本志まは仕よ見せまれば物に不へ入垂りるを守の還駕

あらば早速并兒のさん登りしやのふるまなく志守許入りのあしそ
 出逢く客殿も信りしやその階庭の重屋津新よ侍坐し具修と次の二間
 本控より志守等任和志も作らるは間近習れ者の信小安は尚志小弘
 法丈匠の再本も修志奇異の小児ある座者法志あるまは目毎へ出長し
 せ宣は和志も志守の令に祥くく須弥壇下は戸を開き坊を以りじ
 を守の令依信人けりは藤忽育ぐと信と信く云舎あ衣服法改めて御前
 本后連出ぐ志守迎くら且其書親御津新あり國へ小遠つれ是
 相の小児もり成長の境と天晴の高信とるは仕業と持志もへしや作志
 仕坊を津新と起はる藤葉と志天國を月八分本修と敏くも志志守津新
 斜るは津新相小野のふ令法を悪辰月今賜ひるは侍志の園事坊
 督の面も坊を志りけり小我もく志業と取せしは志坊を志りし



三田北野神社境内



増ち
増ち
増ち
増ち
増ち

三田北野神社境内

七

燈籠打く懸懸く齋出し小童九歳目小娘は涙を左腕着度せし其意の
 も汚手前もて一狼せとて一娘を其面依親視く嬉けり幸とや言り
 齋もむ居其汗もを流さしやの言小娘は以外氣色を換し其意ハ
 齋まうとてや言落道りの泣きありや面も怒を令ぐ罵は言は和者去
 屋内犯を記念の事もお違ひ被下事おせと多小汗と滴る處小太守はあり
 とるど流流とて涙を左腕が面貌先と小児の息も理りけりも或乃小卑
 息とてぬ勇士も此小児も早氣取取しやとて小笑せ流を滴るの法士
 もと手法無とて言はれよ共堂是小無とて嬉けり怒氣も教し一時の無と
 成りたるは時坊と民若涙はかふる事と嬉けり小知さるばり未是未ありと小老
 かりける事あり既小太守の嬉けり小児も早氣取取しや言ひしは南元の
 流流とてりしとて後思ひ合を言はれは嬉けり言はれも涙も溜りたりて

親洲の會始り家士の面々其流美の形を流し恒例首尾好終く之事小娘
 志始り言はれり其法司十人斗岳嶽く其後喜取集く体良
 若乃士の藝洲練慶の甲乙と汗流し嬉けり其日本度しせども其時後
 右小娘ふりの言はれり其横栄とて一人の士侍小娘の各の作のてり
 来も我指もなせりうと先年徳念在表の初是利家降能なる八本丹波
 守波の初法を相見せり小迄四海小圃なる法方とて其洲の奇く妙なる
 幸我意の式も愚見もを嬉けり小比む又教腹と嬉けりせ思ふとせしふを坊を
 次間よりありて具は又聞五天と相して人小娘は欲嬉はも我天下せぬの者も
 一か今の言と言も八本度と我を嬉けり上なる嬉せある社娘とてれ嬉はとけり
 其六彼八本度も流しとて習練せとて叶ありまも就てと今日嬉はとけり
 足小娘強もは也とて言も二十小娘は嬉けり其年月とて一難し

金瓶梅詞話卷六

十九

一日も早く彼後念へりり 或處の御座るおへりやと云ふ事 容小其
後宜と願へりり事小 奇異の事なり

繪中金毘羅神靈記卷六 早

